

善徳

〒七三四一〇〇〇四
広島市南区宇品神田四一十一一八
善徳寺
Tel. 〇八二二五一一六〇二九

新年を迎え、とまたも新しい気持ちで、日々精進されていることと存じます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、冬は空が澄んで、星がきれいに輝いて見えます。オリオン座などは誰もがすぐに見つけられる星座ですね。最近星が明るいので見えにくくなりましたが、子供のころには、天の川がぼうつと白く見えたものです。

星を見ていると、この広大な世界で、今存在している自分とは何なのだろうかと思えてきます。日々暮らしている世界は確かな現実に見えるけれど、地球もたまたまの星の一つに過ぎなくて、この宇宙が始まった時から、膨張し続けている宇宙の中で動いている。

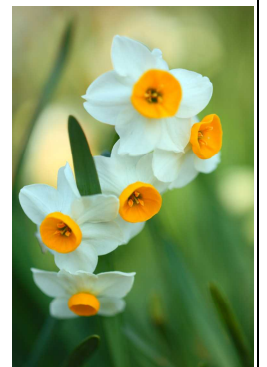
不確かな、何かよくわからない世界の中にあるように思えます。

今、お朝事で、大峯顕先生の「浄土の哲学」高僧和讃を「読む」という本を音読しています。前書きで、宗教的な感性について話されています。十八世紀ドイツのシュライエルマッハーという哲学者が、宗教とは、宇宙を感じることで、無限者の中に自分が抱かれていて、いつでも無限のものに生かされているということ、赤ん坊のような気持ちにならなくて感じることであり、自分の丸ごとを宇宙に任せて生きること、それが宗教の本質であると言っている。これは全くその通りだと思っておっしゃっています。

現在の楽しみだけ追及して、死んだら終わりだと思っていると、本当に終わりが

見えた時には、恐ろしくて寂しい真つ暗な闇しかないのではないのでしょうか。私たちの体は、宇宙の物質でできています。エネルギー不滅の法則で、形を変えながらも、決して消え去るものではありません。

そして、阿弥陀如来の慈悲と智慧によって、この弱い私を、今現在包み込んで下さっています。その無限の命を感じられた時、なにも恐れや不安はありません。お念仏を申しながら、如来さまの無限の命の世界を感じながら身を委ねましょう。



善徳寺行事案内

婦人会大法要

三月十八日(水)

昼席一時より

夜席七時半より

講師

八本松町

叶裕子先生

写真教室

二月三日(月)午後一時半より

講師 北恵 好照 先生

撮った写真を見ながら、構図の取り方を学びます

今月は、先生の審査による、年間の優秀賞を発表します

(おまじ)

常朝時

あります。是非お参り下さい

毎朝七時より 八時まで

大峯顕著「高僧和讃を読む」を音読しています

大きな声でお勤めすると、

肺が鍛えられ、瞑想効果も

正信働勤行と経典解説

御正忌法要

一月二十二日(水) 昼席一時 夜席七時半

講師 東区福田町 西善寺 多田 浩司 先生

尚、二十一日(火) 午後一時よりおみがきをします。

お手すきの方は、ぜひご参加ください。

仏社仏婦研修旅行報告

昨年十一月二十日、参加者二十一名で、別府別院と黒川温泉の旅に行ってきました。

別府別院は、大谷探検隊をシルクロードに派遣したり築地本願寺を建立された、大谷光瑞門主が、温泉療養中に亡くなられ、お通夜を務められた場所でした。

資金不足の為に、工業高校の学生が、授業の実習として建てたもので、手作り感のある簡素な建物ですが、ご門主の終焉の地ということで、別院になったそうです。古い硝子がそのまま残っているのが印象的でした。別府という土地柄、境内に温泉が引いてあり、羨ましく思えました。

その後、黒川温泉に到着し、湯めぐりをしたり、部屋でのんびりしたり、思い思いに楽しみました。広々とした素敵な和洋室で、ゆったりと過ごせました。

翌日は、昭和の町のレトロな商店街を散策し、思い出と共に帰路につきました。



研修旅行 別府別院にて

行事案内

多山報恩会主催

第五九回 仏教講演会

日時 令和二年三月九日

(月) 午後一時半より

会場 広島別院 共命ホール

講師 「如来のこころ」

智慧と慈悲を味わう

講師 本願寺派司教

大分県 法行寺住職

内藤 昭文 先生

入場無料

善徳寺墓地案内

元宇品墓地永代使用料

山側 一区画八十万円

海側 一区画六十万円

年間管理費 三〇〇〇円

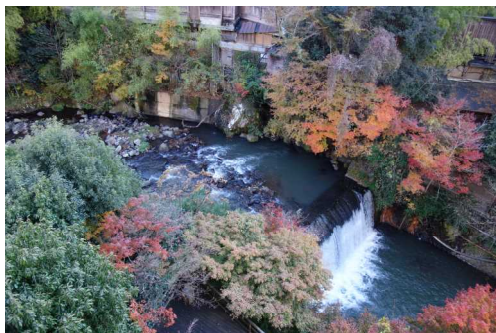
無縁合同納骨堂 一人五万円

善徳寺納骨壇

一区画四十万円(骨壺二個)

二区画六十万円(骨壺四個)

三区画八十万円(骨壺六個)



望 眺 の ら か 彩 優 麗 ホ テ ル

令和二年度年回表

一周忌	平成三十一年
三回忌	(令和元年)
七回忌	平成三十年
十三回忌	平成二十六年
十七回忌	平成二十年
二十五回忌	平成十六年
三十三回忌	平成八年
五十回忌	昭和六十二年
	昭和六十二年
	昭和四十六年

法要の日時を、お寺にご相談下さい



豊後高田 昭和の町

敬 弔

お浄土に参られた方を謹んでお知らせ致します

令和元年	十二月二十六日 東七丁目
	丸山 八代子様 九十四才
	十二月七日 東七丁目
	河野 律子様 八十二才
	十二月二十日 観音新町
	片山 昭博様 七十一才
	十二月二十一日 向洋新町
	渡 知可子様 七十五才
令和二年	一月一日 神田一丁目
	松中 昭様 九十才

郵便番号 七三四一〇〇〇四
 広島市南区宇品神田四丁目十一の八 宗教法人 善徳寺
 電話 〇八二(二五五)六〇二九
 もみじ銀行宇品支店(普) 〇〇八・〇六八六二三四

寺報「善徳」年七回発行
 護持会員には毎回配布
 ホームページ「宇品善徳寺」

